

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 社会 第115号

- 小学校・特別支援学校対象 -  
平成23年4月発行

### 新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価 - 「社会的な思考・判断・表現」の観点から -

平成22年5月11日に文部科学省から「小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について」の通知が発出され、新学習指導要領に対応した学習評価の考え方が示された。

今回の改善では、新学習指導要領において「生きる力」の理念が引き継がれたため、これまでの学習評価の在り方を基本的には維持し、その深化を図ることが重視されている。

そこで、本稿では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校社会科の学習評価について、特に「社会的な思考・判断・表現」の観点から詳しく述べることにする。

#### 1 新学習指導要領小学校社会科の学年目標における思考力・判断力・表現力の重視

新学習指導要領においては、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動の重要性を認識するとともに、論理や思考等の基盤である言語の果たす役割を踏まえ、言語活動を充実することとし、思考力・判断力・表現力等の育成を一層重視している。

このことは、新学習指導要領小学校社会

科の各学年の目標にも表れており、表現する対象を明確にしているのが、今回の改訂のポイントの一つである。

表1 小学校社会科の各学年の目標(3)

旧学習指導要領	新学習指導要領
・・・調べたことを表現するとともに、・・・考える力を育てるようにする。	・・・考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

表1は、各学年の目標(3)「能力」に関する一部であるが、従来の「表現する」という表記から「表現する力を育てる」に変わった。また、表現する対象も「調べたこと」から「調べたことや考えたこと」になった。

このように変わったのは、表現する活動が、調べる活動や思考する活動と一体となって発揮されるという「思考と表現の一体化」の視点が重視されているからであり、思考と表現が相互に絡み合うことによって表現力だけではなく、思考力も高まっていくという考えに基づいている。

さらに、表現力は、表現する内容が明確になって初めて発揮されるとともに、それに基づく発表や報告、討論、論述、作品づ

くりなどの表現活動によって育成される。  
 このような表現活動は，社会科における言語活動の充実にもつながるものである。

## 2 「学力の3つの要素」と評価の4観点との関係

基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばしていくとともに，学習意欲の向上を図るという学習指導要領改訂の趣旨を反映し，学習指導と学習評価の一体化を更に進めていくためには，まず，「学力の3つの要素」を踏まえる必要がある。

「学力の3つの要素」については，学校教育法及び新学習指導要領の総則において，具体的に学力の重要な要素として明示された。

そして，今回の学習評価の改善では，「学力の3つの要素」と評価の4観点との関係を図1のように整理している。

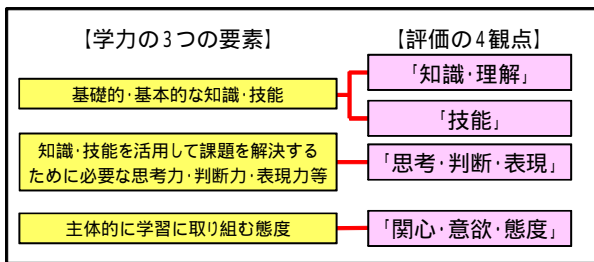


図1 「学力の3つの要素」と評価の4観点との関係

## 3 小学校社会科における学習評価の考え方

### (1) 小学校社会科の学習評価の観点

「学力の3つの要素」として示された能力を適切に評価し，一層育成していくために，小学校社会科における学習評価の観点が表2のように整理された。

なお，「思考力・判断力・表現力」と正対し「思考・判断・表現」の並びで観点を設定しているのは，社会科だけである。

表2 小学校社会科の学習評価の観点

これまでの学習評価の観点
社会的事象への関心・意欲・態度
社会的な思考・判断
観察・資料活用の技能・表現
社会的事象についての知識・理解

↓

新しい学習評価の観点
社会的事象への関心・意欲・態度
社会的な思考・判断・ <u>表現</u>
観察・資料活用の技能・ <del>表現</del>
社会的事象についての知識・理解

(変更になった箇所の下線等は，筆者記入)

評価の観点の表記だけを見ると，下線部の「表現」が移動しただけのようであるが，従来の「表現」と改訂後の「表現」では，とらえ方が大きく異なる。これについて，詳しく述べていく。

### (2) 「社会的な思考・判断・表現」とは

今回，「社会的な思考・判断」に「表現」を加えて設定したのは，社会的事象について思考・判断したことを説明，論述，討論などの「話す」「書く」といった言語活動で表現される活動と一体的に評価しようとしたからである。

これは，子どもたちが頭の中で行っている「思考・判断」という知的活動を「表現」という観点で，いわば可視化するということである。

この観点において，「社会的事象について思考・判断する」とは，学習問題を

見いだしたり，社会的事象の特色や相互の関連，意味などについて，広い視野から考えたり，公正に判断したりすることであり，「思考・判断したことを表現する」とは，社会的事象について思考したり判断したりしたことを図表や地図，年表などの資料を使って説明したり論述したりすることである。

すなわち，「社会的な思考・判断・表現」は，社会的事象の意味について思考・判断したことを言語などで表現する力が身に付いているかを評価する観点である。

この観点を評価するに当たっては，単に文章，表や図に整理して記録するという表面的な現象のみを評価するのではなく，例えば，自ら取り組む課題を多面的に考察しているか，見学や調査をして分かったことの分析や解釈を通じ社会的事象の意味を見いだしているかなど，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，社会科の内容に即して思考・判断したことを説明，論述，討論といった言語活動を通じて評価していくことになる。また，この観点については，思考・判断の結果としての表現だけでなく，その過程を含め評価することに留意する必要がある。

### (3) 「観察・資料活用の技能」とは

一方，「技能・表現」の観点の名称を「技能」に改めたのは，「思考・判断・表現」の「表現」と「技能・表現」の「表現」との混同を避けるためである。

つまり，これまで「観察・資料活用の技能・表現」で評価してきた内容は，基本的には，これからも引き続き「観察・

資料活用の技能」で評価することになる。

例えば，調べたことを整理してまとめた新聞やポスターの作品のできればや表現方法の分かりやすさなど，いわゆる表現技術等については，これまでどおり「技能」の観点で評価する。

すなわち，「観察・資料活用の技能」は，観察・調査したり資料を活用したりして必要な情報をまとめる力が身に付いているかを評価する観点である。

### (4) 小学校社会科の学習評価の趣旨

学習評価の観点が改訂されたことに伴い，趣旨も表3のようになった。

表3 小学校社会科の評価の4観 points の趣旨

【旧観点】		【新観点】	
観点	趣旨	観点	趣旨
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に関心をもち，それを意欲的に調べることを通じて，社会の一員として自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に関心をもち，それを意欲的に調べ，社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。
社会的な思考・判断	社会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し，社会的事象の意味を考慮し適切に判断する。	社会的な思考・判断・表現	社会的事象から学習問題を見いだして追究し，社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。
観察・資料活用の技能・表現	社会的事象を的確に観察，調査したり，各種の資料を効果的に活用したりするとともに調べたことを表現する。	観察・資料活用の技能	社会的事象を的確に観察，調査したり，各種の資料を効果的に活用したりして必要な情報をまとめている。
社会的事象についての知識・理解	社会的事象の様子や働き，特色及び相互の関連を具体的に理解している。	社会的事象についての知識・理解	社会的事象の様子や働き，特色及び相互の関連を具体的に理解している。

(変更になった箇所の下線は，筆者記入)

ここでは，「社会的な思考・判断・表現」の趣旨が，「社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。」となったのが大きな変更点である。

「社会的な思考・判断・表現」の評価

に際しては、授業において、習得した知識及び技能を活用して思考・判断する場面を意識的に設けることにより、子ども一人一人に思考・判断する活動を促すとともに、思考・判断した内容を言語を中心に表現させることが大事になってくる。

#### 4 「社会的な思考・判断・表現」の評価の手順と計画例

「社会的な思考・判断・表現」の評価について、その手順及び計画例として3・4年の「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」で説明する。

##### (1) 「社会的な思考・判断・表現」の評価の手順

学習指導要領の目標及び内容を確認する。



平成22年11月に国立教育政策研究所教育課程研究センターから発出された「評価規準の作成のための参考資料」にある「評価の観点の趣旨」、「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」、「評価規準の設定例」を参考にして、評価規準を設定する。

##### 【「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」の評価規準に盛り込むべき事項】

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的な事象についての 知識・理解
地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理の諸活動に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としてよりよい生活環境を考えようとしている。	地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理の諸活動から学習問題を見いだして追究し、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることについて、思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理の諸活動を的確に見学、調査したり具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめている。	飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理にかかわる対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。



##### 【「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」の評価規準の設定例】（略）



##### 《本小单元における評価規準例》

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的な事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活とごみ処理にかかわる対策や事業の結び付きについて関心をもち、意欲的に調べている。</li> <li>地域社会の一員としてごみの減量や資源の再利用などの取組に協力しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ処理にかかわる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</li> <li>ごみ処理にかかわる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていること、法やきまりの遵守により地域の人々の生活が維持されていることを自分たちの生活と関連付けて考え、自分なりの意見を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備などを観点に基づいて見学・聞き取り調査をしたり、ごみの量のグラフやごみ処理の流れ図などの資料を活用したりして、ごみ処理にかかわる対策や事業について必要な情報を集め、読み取っている。</li> <li>調べたことを整理して、新聞やポスター、紙芝居、手紙などにまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを理解している。</li> <li>ごみ処理にかかわる対策や事業が計画的、協力的に進められていることを理解している。</li> <li>ごみ処理にかかわる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</li> </ul>



小单元についての指導と評価の計画を立てる。

(2) 「社会的な思考・判断・表現」の評価の計画例

1 小単元 「ごみ減量大作戦」(全13時間)

2 目標

- (1) 健康で衛生的な生活や町づくりをするためのごみ処理に関心を持ち、ごみ処理の仕組みや清掃工場について意欲的に調べ、市のごみの減量化や資源の再利用化に協力しようとしている。〔関心・意欲・態度〕
- (2) ごみ処理にかかわる市の対策や事業、地域の人々の法やきまりを守りながらの協力が、自分たちの健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを、それにかかわる人々の思いや願いと関係付けながら考えるとともに、ごみの減量化やごみ出しのルール等についてアイデアを出し、それを表現することができる。〔思考・判断・表現〕
- (3) 市のごみ処理の仕方のパンフレットやごみ減量のためのチラシ等の資料やごみの量のグラフ等の統計を活用したり、清掃工場見学で見たり聞いたりしたことをメモにとったりして、ごみ処理についてまとめることができる。〔技能〕
- (4) 自分の生活とごみ処理のかかわりやごみ処理にかかわる事業が計画的・協力的に行われていることが分かるとともに、それらが地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に不可欠なものであることを理解することができる。〔知識・理解〕

3 指導と評価の計画

過程	主な学習活動	時間	資料	指導上の留意点	「思考・判断・表現」の評価場面			
つかむ	1 学校や家庭から出るごみの種類や量について話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭から出たごみ</li> <li>・家庭で一週間に出たごみの量グラフ</li> <li>・ごみ収集パンフレット</li> <li>・見学のしおり</li> <li>・清掃工場のパンフレット</li> <li>・新聞</li> <li>・ポスター</li> <li>・インタビューの録音テープ</li> <li>・市のごみの量の変化のグラフ</li> <li>・ごみ処理の移り変りの図</li> <li>・市のごみ減量パンフレット</li> <li>・手紙</li> </ul>	<p>様々な種類のごみがあることに気付かせるために実際のごみを提示する。</p> <p>各家庭での一週間のごみ調べの結果や家庭でのごみ処理の仕方、ごみ収集のパンフレット等を基に、学習問題を焦点化する。</p> <p>追究の見通しをもたせるために、前単元の調べ方を想起させる。</p> <p>清掃工場で働く人々の工夫や努力について追究できるようにするために、見学の視点を明確にもたせる。</p> <p>自分たちの考えをはっきりさせるために、自分たちで集めた資料と工場見学を通して考えたこととを関係付けながらまとめさせる。</p> <p>ごみ処理を自分たちのこととしてとらえさせるとともに、きまりの大切さに気付かせるために、ごみの厳格な分別必要派と不必要派に分かれて討論をさせる。</p> <p>ごみ処理の必要性に気付かせるために、ごみの減量化や資源ごみのリサイクル等の取組を調べさせ、今後自分たちで実際に取り組むことを提案させる。</p>	<p>「学習問題や予想、追究計画に対する子どもの発表やノートの記述から「ごみ処理にかかわる対策や事業について、調べるための見通しをもっているか」について評価する。</p>			
	2 調べたいことや疑問に思ったことを基に学習問題を設定する。					<p>学校や家を出たごみは、どこでどのように処理されているのだろうか。</p>		
立てる	3 ごみは、どのように処理されているのかについて予想を立て、調べる方法や内容、方法等の追究計画を立てる。							<p>「新聞やポスター等の表現から「ごみ処理と自分たちの生活環境の維持と向上との関係をとらえているか」について評価する。</p>
	4 近所のごみ収集の様子について調べる。							
調べる	5 清掃工場見学の計画を立てる。							<p>「討論での子どもの発言やノートの記述から「ごみ処理やきまりの必要性に対する自分なりの考えがあるか」について評価する。</p>
	6 清掃工場に見学に行き、ごみの処理の仕方について調べる。							
まとめる	7 見学で分かったことや発見したことを整理し、新聞やポスター、紙芝居等にまとめる。							<p>「今後の取組やごみ出しルールの提案の手紙から「ごみの減量化や再利用化等に向け実践しようとしているか」について評価する。</p>
	8 グループの発表を基に清掃工場の働きについて話し合う。							
広げる	9 厳格な分別が本当に必要かどうかについて討論する。							
	10 市のごみ処理の課題やごみの減量対策、資源の再利用化への取組について調べ、自分たちにできることはないかを話し合う。							
	11 市のごみ処理担当課の方や地域の方に対して、ごみの減量化に向けて自分たちができる取組やごみ出しのルールの提案について手紙を書く。							

## 5 「社会的な思考・判断・表現」の評価方法例

### (1) パフォーマンス評価による「社会的な思考・判断・表現」の評価

思考力・判断力・表現力を評価するに当たって有効な評価法として、平成22年3月に中央教育審議会教育課程部会から発出された「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」でパフォーマンス評価が挙げられている。

パフォーマンス評価が必要とされている背景には、これまでに学習した知識や技能が十分に活用されてこなかったという課題があったからである。

そこで、学習した知識や技能を統合して活用することができるかについて、一定のまとまった意味ある課題を解決したり、作品等を作り出したりする学習活動を設定するというパフォーマンス評価の必要性が出てきた。

パフォーマンス評価には、次のような効果があると言われている。

学習した知識や技能の活用が図られ、理解を深めることができる。

思考力や判断力、表現力を使ったり、高めたりすることができる。

子どもの学習に対するモチベーションを高めることができる。

知識や技能が長期に渡って保持される。

評価場面が授業の指導場面と近いので、評価結果をフィードバックしやすい。

パフォーマンス評価の方法には、観察や対話による評価や実技問題、自由記述による筆記問題などがあるが、「社会的

な思考・判断・表現」を評価する方法としては、ルーブリックという評価規準を設定した上で、レポートやプレゼンテーションなどのパフォーマンス課題を示し、それに子どもたちが取り組んでいくという方法が有効である。

### (2) ポートフォリオの活用による「社会的な思考・判断・表現」の評価

中教審の「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」において、評価に関する情報を積極的に提供する具体的な方法として、これまで総合的な学習の時間等で活用されてきたポートフォリオが挙げられている。

学習評価におけるポートフォリオの活用では、子どもの学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したファイル等を保存し、そのファイル等を活用して子どもの学習状況を把握したり、子どもや保護者等に対して、その成長の過程や今後の課題等を示したりすることなどが考えられる。

このように、学習評価の観点や趣旨が変更になったということは、授業の改善が求められているということでもある。評価のための評価にならないように、指導と一体となった学習評価を位置付けていかなければならない。

#### 〔引用・参考文献〕

- ・「小学校学習指導要領解説社会編」H20.8 文部科学省
- ・「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」  
H22.3 中央教育審議会教育課程部会
- ・「小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」  
H22.5 文部科学省
- ・「評価規準の作成のための参考資料」  
H22.11 国立教育政策研究所教育課程研究センター  
(企画課)